

217. 鶴岡市における活着肥追肥の検証

生産生態制御学講座 附属農場分野 有賀 和裕

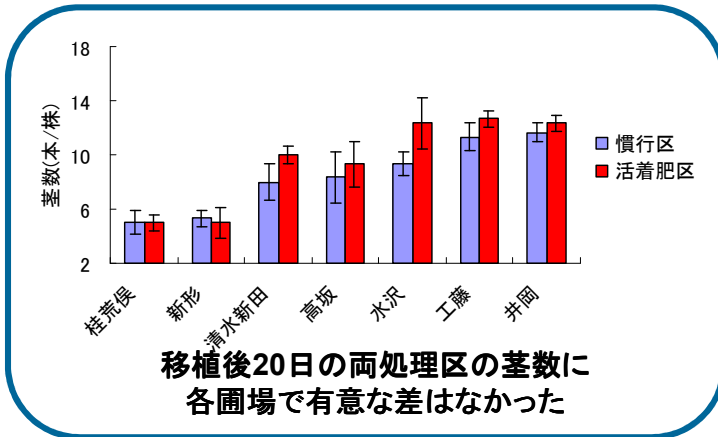


はじめに: 活着期追肥(以下、活着肥)は初期茎数を増加させる一手段として行なわれている。しかし、気象、土壌条件が異なる鶴岡市の各地区で、活着肥が初期茎数を増加させるかは明らかにされていない。

目的: 鶴岡市の水田における活着肥が水稻初期茎数に与える影響を検証すること

材料と方法: 供試品種 はえぬき 供試圃場 鶴岡市7圃場
 処理区(施肥窒素量) 慣行区 基肥6g/m² 活着肥区 基肥4g/m² 活着肥2g/m²
 施肥日 基肥5月22日 活着肥5月28日(移植後5日)

結果

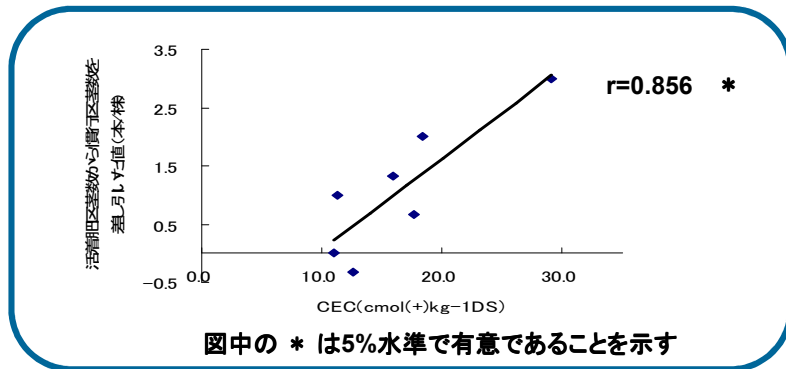
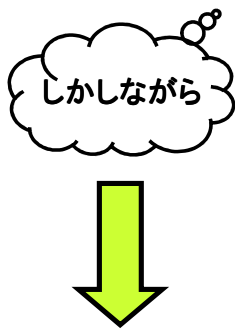


圃場風景



結論

本年の気象条件下ではいずれの供試圃場でも活着肥が初期茎数を増加させなかった



土壌のCECが高い圃場では活着肥により移植後20日の初期茎数を増加させる可能性あり

